特集 つばめの農業

燕市というと「ものづくりのまち」「金属製品」のイメージが強いですが、お米はもちろん、多くの野菜や果物を生産しています。

今号では、誇りをもって働く農家さんと、異なる分野から農業にアプローチする人たちを紹介します。

●打撃を受けた農業の世界

新型コロナウイルス感染症が私たちの生活に入り込んでから、随分と経ちました。

その影響は、外食産業や製造業、そして農業の分野にも大きな打撃を与えています。

日本政策金融公庫が3月に発表した農業景況調査によると、令和2年度の農業景況※DIは前年度の6ポイントから大幅に悪化（▲32・4）。令和3年度の見通しも、さらに7・5ポイント低下する見込みです。

また、市が行ったアンケート（令和3年5月度）では、「新型コロナウイルスの影響があったか」について、「影響が出ている」「影響が出る可能性がある」と答えたのは全体のおおよそ6割。感染症に伴う売り上げの減少、販売量の減少による在庫の増加・余剰が挙げられており、市内外の飲食店に卸していた分の売れ行きが悪くなったことが大きな原因の一つと考えられます。

●改めて目を向ける

一方で、農家は絶え間ない努力と工夫を重ね、消費者に変わらずおいしい農産物を届けるために日々頑張っています。また、異なる分野からも、今、農業に大きな関心が寄せられています。

農業はあまりに身近で、日頃考えることは少ないかもしれませんが、今回、農業という分野に改めて目を向けてみたいと思います。

※農業景況DI
農業における景気の判断指数。数値が低いほど「景気が悪い」と感じる経営体が多いことを示す。

01 チャレンジする農業者たち

実は市の面積の約半分を畑や田んぼが占める燕市。市内では多くの農家が、よりよい農業を求めて挑戦を続けています。

（農）あぐりマイスター長所
岩野 健さん・髙波 良夫さん・髙波 豊浩さん

▲取材のちょうど前日、「令和３年度新潟県優良農業経営体等表彰 経営改善部門」で「新潟県知事賞」を受賞。

check 国産玉ねぎの需要は伸びています

玉ねぎは海外からの輸入が約４割。その大半は中国産です。和洋中の料理からスナック菓子までオールラウンダーであり、国産品の需要はとても高まっています。

園芸品目の中では機械化が進んでいる玉ねぎを、JA が導入した移植機やハーベスターなどをレンタルしながら生産しています。

九州佐賀や北海道などの大産地出荷の合間に出荷できるニッチな産地として新潟は位置しているので、高単価も期待できます。

最新ハーベスターを使った収穫の様子▶

check 農作業はアプリ管理の時代に！

構成員が各々行った作業を入力して情報共有を図ります。田んぼの面積や進捗状況なども、いつでもどこでも一目で分かります。

学生応援物資にも！

帰省を自粛している大学生らへの応援物資に、小ぶりの玉ねぎを送りました。一人暮らしでも使いやすいサイズです。

▲玉ねぎは腐りにくく、ずっと保存できるのも強みです

check 最新施設で全国へ出荷

収穫された玉ねぎは、工事費１億円を超す全農にいがたの最新の出荷施設へ。乾燥から選果、出荷までの機械化が大きく進んでいます。

先進的農家集団
（農）あぐりマイスター長所

●玉ねぎ生産の先人

約15年続く農事組合法人「あぐりマイスター長所」。水稲と大豆をメインに、燕市では珍しい、玉ねぎを生産しています。

作り始めて3年ほどは小さいものしかできず、とても苦労したそうですが、一つひとつトラブルシューティングしながら栽培に取り組んだことで、栽培面積は約6倍に拡大。初めは加工用として出荷していたのが、今はその7割が生食向けとなりました。「まだまだ試行錯誤中です」と笑いながらも、確かな手応えを感じています。

失敗も含めたノウハウが蓄積されたことで、後進の農家も安心してチャレンジできるようになりました。今、米生産以外の可能性として玉ねぎは大注目です。

●ITを活用した農業

あぐりマイスター長所では、5年ほど前から、パソコンやスマホを使ったほ場管理ソフトを導入しています。こ